

2022年度
関西学院大学ロースクール
D日程

一般入試（法学未修者）

論文問題

《10:00～11:30》

○開始の指示があるまで内容を見てはいけません。

【論文問題】

問題文を読んで、〔設問1〕および〔設問2〕に答えなさい。

〔設問1〕

筆者によれば、バイアスの内実はどのようなものであって、どのようにして生じるのかについて、問題文の「1 認知とそのゆがみ」の論旨に即してまとめなさい（300字程度）。

〔設問2〕

問題文の「2 バイアスはなぜあるのか？」は、人間がバイアスを持っている理由を人類の歩みにさかのぼって論じており、その中で、バイアスにはデメリットのみならずメリットもあることが指摘されている。この点について、バイアスの具体例を挙げたうえで、その具体例のどういう点がデメリットとなり、どういう点がメリットとなるのか説明しなさい（500字程度）。

著作権許諾の都合上、論文問題については、

ホームページ上の公開は行っておりません。

閲覧を希望される方は司法研究科事務室までお問い合わせください。

2022 年度入学試験 出題趣旨・解説・講評

【D 日程：論文】

《出題趣旨》

本問は、藤田政博「バイアスとは何か」（ちくま新書、2021年）の中から、人間が持っているバイアスがどのように生じてくるかを論じた導入的な部分を題材としています。バイアスが認知のゆがみであるという内実を、筆者の文脈に沿って、脳の推論過程における推定と修正という点に即して的確に理解し、まとめる力を見る（設問1）とともに、さらに、バイアスにはデメリットだけでなくメリットもあり、人間がバイアスを持っているのは、他者と関係を築きながら生き延びていくうえでメリットがあったことが受け継がれてきているからである、という意外な面があることについて、具体例を挙げて自分の言葉で説明することを求める（設問2）のが出題趣旨です。設問2については、問題文にヒントが書かれており、具体例を挙げることはさほど難しくありませんが、できれば問題文以外に自分なりの例を挙げたうえで、かつ限られた字数の中で、ポイントをわかりやすく入れ込んで説得的な記述をしてほしいところです。

〔設問1〕

（解答例）

人間は、五感で受け取った情報をもとに身体の外側の世界の状態を推論することによって、周囲の物理的世界や人間関係的世界を認知している。この推論においては、脳が貯えてきた周辺環境の知識からまず外界の状況を推定し、推定した内容を目や耳から入ってきた情報と照合し、情報にずれがあれば推定を修正することを繰り返していき、修正が不要になったところの推定が外界についての認知内容となる。このように脳の推論とは、最初の推定から出発して間違いを修正していく活動なのであるが、最初の推定やその後の修正がうまくいかないと、周囲の世界を実際と違ったかたちで認知してしまう。そのような認知が抽象的な認識対象についてもおよんだ場合のゆがみがバイアスである。

（約310字）

《解説・講評》

問題文の冒頭に、バイアスとは、人間が持っている「認知」の「ゆがみ」のことをいう、と示したうえで、「認知とは何か」「ゆがみとは何か」という順に記述されていますので、この2つの要素の枠組みに沿ってまとめられていることが必要です。こ

の枠組み自体は、大半の答案ができていました。

このうち、人間の「認知」とはどういうことかについて、問題文では、初めに、人間が五感を使って受け取り、収集した情報をもとに脳が身体の外側の世界の状態を推論することによって外界の状態を認知している、という基本構造が示されていますので、この点は押さえる必要があります。キーワードとして、脳による「推論」という言葉は不可欠です。しかし、これだけでは、感覚器から得た情報をもとに推論を単純に行って認知に至っているか、もしくはせいぜい三次元的な形状の認知を行って終わっているかのような、平板な理解で終わってしまいます。問題文では、このような推論説と直接知覚理論を統合するものとして、自由エネルギー原理に基づく理論が紹介されています。この理論は、脳が貯えてきた周辺環境の知識からまず外界の状況を推定したうえで、推定した内容を目や耳から入ってきた情報と照合し、情報にずれがあれば推定を修正することを繰り返し、修正が不要になって修正を止めた推定が、外界を認知する内容になっている、ということを明らかにしています。この、「推定の修正」を繰り返していくという過程も、押さえられている必要があります。

そのうえで、「ゆがみ」とはどういうことか、論は進んでいきます。上に述べた脳による「推定の修正」の過程の中で、最初の推定やその後の修正がうまくいかないと、周囲の世界を実際とは違ったかたちで認知してしまうことになる、という点が重要な指摘です。そして、そのような認知が、目に見えない、抽象的な認識対象についてもおよんだ場合のゆがみが、本書で扱うバイアスである、と明示されています。

このように、問題文は極めて明快に述べていますので、字数に制限のある中で、これらの論旨を無駄なくきっちりとまとめることができるかどうか、ポイントです。問題文には、この後に、人間が他者の行動を見て他者を判断する際のゆがみが例として記述されていますが、このような例の引用は、設問2で使うことはともかくとして、設問1のように、バイアスの内実と、バイアスが生じる原因を簡潔にまとめるうえでは、必ずしも必要ありません。

採点においては、以上のような、不可欠な要素がきっちりとバランスよく、まとめられているかを中心に評価しました。

答案を見た限りでは、認知が「推定の修正」を繰り返す過程を経て行われているという構造の指摘や、そのような認知が、目に見えるような対象でなく抽象的な認識対象についてもおよんだ場合のゆがみがバイアスである、という重要な指摘が、残念ながら欠けているものも見受けられましたが、論旨の正確な理解という点からすると、マイナス評価をせざるを得ませんでした。なお、この設問のように、問題文をテーマに沿ってまとめるうえでは、単に問題文から各箇所を切り取ってつなぎ合わせるだけでは、意味が通った文章になりませんので、自分なりに咀嚼して組み立てる必要がありますが、筆者の述べていることを自己流にゆがめてしまっってははいけません。あくまでも筆者の述べていることを正しく要約しつつも、論旨のよく通ったわかりやすいまと

めになっているかどうかを、よく確かめて記述してほしいところです。

〔設問 2〕

(解答例)

例えば、会社の就職面接の前に、その会社の情報を調べた結果、その会社の将来性や社員の仕事ぶり、社内の人間関係や職場の雰囲気などについて、極めてポジティブな印象を持っていたとする。現実にはどこの会社にもマイナス面があるはずであるから、このような先入観はバイアスと言ってよいものであり、本当にその会社に入社するのが自分にとって良いのかどうかの判断を誤りかねないというデメリットがあるのは確かである。しかし、他方でその状態で就職面接に臨んだ場合に、会社に対する好印象を話題にして自分の明るい将来を語る材料にすることができれば、会話が非常にはずむことにつながる面もある。面接官から良い評価を受けて採用に結びつくだけでなく、会社の良いところのみならず、現実には抱えている課題などを同時に具体的に聞き出したりすることもでき、かえってリアルな認識をもって入社し、より意欲的に自分の能力を発揮していける可能性につながるというメリットもある。このように、認知のゆがみが他者との会話を経て逆に認知の修正や拡がりをもたらし、人生の好転につながることもあるという点では、バイアスが必ずしも悪いとばかりは言えない。

(約 490 字)

《解説・講評》

設問は、問題文において、人間がバイアスを持っている理由について人類の歩みにさかのぼって論じられている、という点を踏まえつつ、「バイアスの具体例を挙げた」うえで、その具体例の「どういう点がデメリットとなり」「そういう点がメリットとなるのか」を説明する、という 3 点のことを求めています。答案を書く上では、この 3 点が求められていることを明確に意識し、そのことが明確にわかるように構成して書いてほしいところです。

まず、バイアスの具体例として適切な例が挙げられていることが必要です。問題文には、他者の観察におけるゆがみの例や、「自己高揚バイアス」、「パーソン・ポジティブティ・バイアス」が挙げられていますので、それらを使ってもかまいませんが、しかし、それらがいったいどういうバイアスなのか、つまり、設問 1 で出てきたところの、人間の認識対象に対する認知のゆがみが具体的にどういう点に生じているのかを、明確にすることが必要です。また、できれば、問題文に出てくる以外に自分なりの適切な例を挙げてほしいところです。解答例はその 1 つです。ただし、その場合でも、それをバイアスの具体例として挙げる以上、どういうバイアスなのかを、よくわかるように示す必要があり、そこを飛ばしてメリットやデメリットを論じても、記述が曖昧なままに終わってしまいます。解答例で、就職面接の際に会社に関する極めてポジ

ティブな印象を持っていることについて、「現実にはどこの会社にもマイナス面があるはずであるから、このような先入観はバイアスと言ってよいものであり」と指摘しているのは、その部分です。答案の中には、自分なりに考えた具体例を挙げたものは見受けられましたが、どの点がバイアスなのかが全く書かれていないものがほとんどだったのは、残念でした。

続いて、バイアスの具体例のどういう点がデメリットとなるかを、的確に説明することです。この点は、バイアスが認知のゆがみである以上、そのゆがみが誤った判断の原因になるといった欠点が付きものである、というようなことを指摘すれば十分です。

これに対して、どういう点がメリットとなるかについては、認知のゆがみというマイナス面が、何故か、人間が他者と関係を築きながら生き延びていくうえでのメリットにもなり得るといって、問題文の示した逆説的な側面を、具体的な場面を描きながらうまく指摘してほしいところです。解答例は、ここをかなり掘り下げて、なるほど、意外なメリットもあるのだということがよく理解できる記述になっているのがわかると思います。

このように、バイアスの具体例を自分で挙げたうえで、デメリットとメリットの両面を自分の言葉でよくわかるように説明してもらうのが、この設問の趣旨ですが、答案の多くは、問題文に出てくる他者の観察におけるゆがみの例や「自己高揚バイアス」、「パーソン・ポジティビティ・バイアス」を挙げたうえで、問題文にマイナス面とプラス面らしい記述が書かれているのをそのまま貼り付けただけのようでした。区別・整理して書かれていればそれなりの評価はしましたが、これだけではデメリットやメリットを自分なりに掘り下げているとは言えません。なお、答案の中には、「ポジティブなバイアスとネガティブなバイアスのどちらが生き延びるのに役立つか」という問題文の記述の部分のまま引き写したようなものもありましたが、これは、バイアスの具体例を挙げたことにはならないので、低い評価をせざるを得ませんでした。それに対して、問題文に出てくる以外の具体例を考えて挙げてくれた答案もそれなりにありましたが、前述したように、どういうバイアスなのかがはっきりしないので、単なる良し悪しの感想のような記述に終わってしまう傾向が見られ、デメリットやメリットの掘り下げという出題趣旨に沿ったものは、残念ながらほとんどありませんでした。

本問のような設問に有効に答えるためには、問題文と設問のメッセージをまずきちんと掴んでうえで、何を記述に折り込むのか、その中で、問題文を単に引き写すのではなく自分なりに掘り下げた考察や具体的な記述を求められるのはどの部分か（本問では、特にメリットの部分）を、その場でしっかり考えることが肝要です。これは、ある論点を常に複数の視点から考察したうえで説得的な解決指針を見い出していくことが、法律家に求められる資質と言ってよいからです。